

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

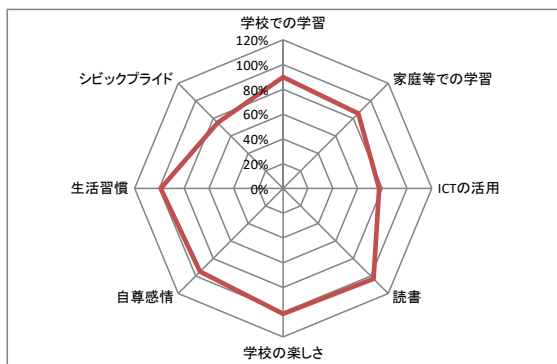
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○「言葉の特徴や使い方」「話すこと聞くこと」「書くこと」に関する問題の正答率が高い ●「情報の扱い方」「敬語」に関する問題の正答率が低い	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題 ○「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」問題	
	努力が必要な問題	●「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	○「数と計算」「変化と関係」に関する問題の正答率が高い ●「図形（正方形）（正三角形）（高さが等しい三角形）」に関する問題の正答率が低い	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○「小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」問題 ○「（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」問題	
	努力が必要な問題	●「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題 ●「『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る」問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」の問いに対して肯定的な回答が全国平均を上回っている。学級活動や縦割活動等を充実させていくことが、学校の楽しさや友達関係に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で取り組んでいく。
○	「学校の授業時間以外での読書」「読書は好きですか」等の読書に関する問いに対して肯定的な回答が全国平均を上回っている。図書館整備、読み聞かせ等の環境面の充実が影響していると考えられる。
●	「ICTの活用」に関して全国平均を下回っている。児童の学びを深めるためのツールとしての活用について、児童の指導と同時に教師の研修も充実させていく必要がある。
●	「学校での学習」については、「自分の考えをもつ」「話し合い活動を通じて、自分の考えを広げる・深める」ことが課題である。子どもが楽しく、分かる授業をさらに追求し、授業改善を図っていく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・各学級においては、学習規律を徹底させ、落ち着いた支持的風土の中で学習が進められるようにする。
- ・授業においては、「めあて」「まとめ」「ふり返し」を確実に進行。また、授業の中で自分の考えを書く活動やその考えを発表する活動の充実を図る。
- ・タブレット端末をはじめとしたICT機器を効果的に活用した授業づくりを推進する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習（自主学習）の手引きを作成し、自主学習の取り組みを強化する。また、家庭学習でAIドリル活用も推進していく。
- ・縦割活動や委員会活動等、児童が活躍した姿を学校通信やホームページ等で家庭に伝え、家庭でも児童をほめ、認められるようにしていく。